

鳴神山山行報告

【山行日】2021年 12月 26(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 8:00

【費 用】マイカー2台 : 1,100円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、青柳、安西、
嶋田、島田、関、廣瀬、藤原、渡辺

【コースタイム】岩舟支所P8:00＝駒形登山口

P9:05/9:25～肩の広場 10:35/10:40～鳴神山

10:50/11:00～櫛田峠 11:20～赤柴登山口 11:40

～駒形登山口 12:40/12:50＝雪の屋 13:30/14:20

＝あわしま堂 14:55/15:10＝岩舟支所P15:50



穏やかな冬晴れに恵まると、素晴らしい眺望が得られる鳴神山を計画した。今回は駒形登山口から山頂に登り、裏の肩から赤柴登山口に下る周回コースにする。岩舟支所を8時に出発し国道50号線を西に進み、桐生市街を通過して駒形登山口に向かう。登山口の駐車場に着くと下の駐車場はすでに満車で、上の駐車場に行くと1台分空いていた。もう1台は路肩の広い場所に止め、出発の



準備を整えストレッチを行なったら出発する。今日は晴れの天気だが寒気の影響で風が強くなる予報なので、早く山頂に登りさっさと下る作戦だ。広い林道を緩やかに登り、広場を過ぎると山道に入る。沢沿いの登山道進み、中間地点の休憩所を過ぎると傾斜がきつくなり、岩の登山道を登るようになる。大きな岩の間を通り抜け、岩の急坂を登って高度を上げて行く。高度が上がると風が強くなるが、下から後押しされるように吹くのでさほど寒さを感じない。

傾斜が段々きつくなり、九十九折れの道を登り切ると平坦な肩の広場に到着。肩の広場は十字路になっており、反対側へ下ると大滝登山口へ、右に進むと吾妻山への縦走路となる。我々は左に登るが雷神岳神社の前で休憩し、キーウイフルーツや菓子をいただく。エネルギーを補給したら山頂に向けて出発し、急坂を10分程登ると鳴神山山頂に着く。山頂には鳥居と石祠が並び、360度の展望が広がるが日光連山は雲の中で見る事が出来ない。それでも東に安蘇の山々や筑波山、南には桐生市街から関東平野が見渡せ、初めて登る方達は満足そうだった。風は思ったほど強くなかったが、リンゴや菓子をいただいたら下山する。



往路を少し下り分岐を右に進んで仁田嶽山頂を通り、北側の櫛田峠へ向かって下って行く。仁田嶽



から北に向かって下る尾根は風が強烈に吹き付け顔が痛く、体温が一気に奪われて凍えそうだった。赤い小さな鳥居が立つ櫛田峠まで下ると風は弱まり、峠から谷沿いの道に入ると風を感じなくなる。風がおさまった場所で休憩し、金柵屋のドーナツをいただいた。ここから少し下ると赤柴登山口に出て、ここからは広い林道歩きとなる。途中、女性3名がお花摘みに行き、7名は先行して下って行く。広い舗装道のT字路に出て左に下って行くが、標識があり右は登りなので間違えるこ

とは無いだろうとゆっくり下って行った。途中で待っていたが3人が降りてこない。おかしいと思い、我輩がT字路まで戻ったが見当たらない。反対側の舗装道路を登って行き、大声で名前を呼ぶが返事が無い。林道をどんどん登って行ってしまったと思い、登山口まで急いで戻り、SLの車で迎えに行くことにする。残りの皆さんは我輩の車で雪の屋に向かってもらい、我輩はダートな林道を車で登って行く。T字路からは舗装道路になり、かなり登って行くと間違いに気づいた3人が下って来た。皆さん車を見た時には我輩が神様に見えた喜んで。ダートな林道は慎重に走り、スマホが繋がる場所まで下りたらSLの車に「無事確保」を連絡し、昼食のオーダーも伝える。



今回は思い込みで反対側に進んでしまった

そうだが、CLの我輩も分岐では必ず待つべきだと大いに反省させられた。

梅田湖の畔にある雪の屋で皆さんと合流して一件落着。先にオーダーしてもらったお蔭で、直ぐに美味しいうどんや天丼をいただけた。皆さんも「うどんが凄く美味しい」と満足そうだった。

ここからは梅田大橋で梅田湖を渡り、県道桐生・田沼線を通ってあわしま堂へ向かった。

あわしま堂でお買い物をして、予定通り岩舟支所に帰着した。